

## 第 197 回ペン川柳（お題＝足・足る）令和 2 年 10 月 27 日

世話人：塚田 實（<sup>だ</sup> <sup>だ</sup> 拿々）

（\*印は今月の互選五句、\*は最優秀句）

1. 今月も御手当足らぬと妾言う（酔深＝平尾）→ 1 票  
今回のお題「足・足る」では、「御手当が足りない」とか「家計が足りない」との句がたくさんありました。票が分散したかも知れません。それにしても「妾」は遠い昔の話ではないかとの指摘が多くありました。
2. まだ足りぬもつと自肅と百合子姫（安兵衛＝山縣）→ 1 票  
新型コロナウイルスの感染者数は、また増えてきており、第三波かとも言われています。緊急事態宣言は出しにくく、都道府県知事に任意の自肅要請に頼っているのが現状です。小池知事の焦りの色が見えてくるようですね。
3. 足りないわ！使い過ぎとはつい言えず（拿々＝塚田）→ 4 票  
妻に「足りないわ！」と言われても、「それは、お前の使い過ぎ」とは言えない情けない夫です。それにしても結婚したての頃は、安月給だったので使いたくても使えず、今になって妻が使う気持ちは分からないでもないですね。
4. 大根を嗤うお前は馬の足（火酒＝三春）→ 2 票  
「馬の足」は、本当の馬の足（サラブレッドから農耕馬まで）の例えか、芸能舞台での馬の足役で諸説割れましたが、作者は「『大根役者と馬の足役、どちらも下手な役者の代名詞ですが、お互いを嘲笑っている』、つまり『目クソ鼻クソを嗤う』と同じ意味です。なぜ誤解されたのか不思議！！」と語っています。よく分かりました。
5. 悟った坊主に足らぬ女難除け（我々好＝浜田）→ 4 票  
仏教の戒の一つに「不邪淫戒」というのがあります。しかし、お坊さんでも「女難」から逃げられないという、人生の機微を表しているとも言えますね。このお坊さんは悟りの一歩手前かも知れません。
6. 金足りぬ何とかしてよ菅さんよ（酩帝＝曾山）→ 0 票  
コロナ禍で経済が痛み、10 万円の特別給付金だけではとても賄えず、生活に苦勞している人たちが増えています。コロナと経済の両立は菅首相の最大の課題です。作者の叫びは理解できますが、内容がストレート過ぎたのか、票は入りませんでした。
7. 欲を張り足るを忘れて詐欺に会う（零門＝松谷）→ 4 票  
作者は「詐欺に会う」を「だまされる」とすべきだったと反省しています。詐欺に誘う声もかかれないと嘆く川柳子もいました。動詞 4 個は少し気になるとの指摘もありました。
8. 足りないよ財力、気力、我が 5G（井波＝稲宮）→ 2 票  
作者は「携帯電話は日本が最初。しかし、米中韓に追い越され、残念無念」と嘆いています。この事業ではタイムリーな大型投資が必要ですが、日本企業は意思決定に遅れをとった感じがします。

9. 客足の途絶えて女将コロナやる (晃二=安藤) → 0 票  
作者によると「コロナで客足が減り、女将は一人でコロナビールを飲む」という意味だそうです。コロナ感染症とコロナビールの繋がりに思い至らなかった人が多かったのか、票が入りませんでした。意味が分かれば面白い句ですね。
- \* 10. 妻が言う足りた試しのない家計 (酔深=平尾) → 5 票  
結婚以来いつも妻から言われていたという、安月給の業界(?本人曰く)にいた川柳子もいらっしやいました。でも皆妻の才覚で何とかやってきて、最近やっと余裕が出てきて、ペンクラブ生活を楽しんでいるのですよね。この句は優秀句に選ばれました。
11. コロナ禍で仕事貰えず足を出す (だし=大野) → 0 票  
失業率は上がり、求人倍率は下がっています。非正規労働者の方から影響が大きく出ているようです。早くこの困難から脱出したいですね。
- \* 12. 足るを知る分からぬうちに千の風 (酔雅=西川) → 5 票  
京都の龍安寺の蹲踞に「吾唯足知」の銘があります。「悟り」を得てこそ「足るを知る」の域に達するのでしょうか。秋川雅史が朗々と歌う「千の風になって」が聞こえてくるようです。優秀句に選ばれました。
13. 元アッシー今足手纏いと呼ばれ (明迷=八木) → 3 票  
とても良い発想ですが、川柳子からは中七が字余りと見て、「足手纏いと今呼ばれ」や下五を「呼ばれてる」としたらとのアドバイスがありました。作者からは全体が17音の自由律川柳として挑戦したとのコメントがありました。
- \* 14. 選挙前代議士手を擦り足を擦り (我々好=浜田) → 5 票  
作者は小林一茶のパクリだと言っています。「やれ打つな蠅が手をすり足をする」です。先の参議院議員選挙での買収疑惑での裁判が続いていますので、妙に生々しく聞こえます。優秀句に選ばれました。
15. 十万円下りた途端に足が出る (損得=細谷) → 2 票  
「ドイツや英国では決まったら2、3日で振り込まれた定額金が、わが国では2、3ヶ月かかり、その間に使い道も増える一方で、たちまち消えました」は、作者弁です。デジタル化の進展が望まれますね。
16. 足り過ぎて八十七歳老衰死 (だし=大野) → 2 票  
作者は、世界中での豊富な経験があり、年齢を感じさせないほど大活躍しています。まだまだ後輩を指導してください。
17. ゼロ金利一足出せず金溜る (井波=稲宮) → 0 票  
「企業が金余りだと、破綻した会社を買ったり、飛ばしをしたり、悲しいかな前向きの投資に向かない」は作者弁。ゼロ金利が長く続いていますね。銀行の経営も大変なようです。
18. お友達皆利権屋と足がつき (安兵衛=山縣) → 0 票  
「おおっ、怖いですね」。皆利にさといのでしょうか。「足がつき」がストーンと落ちず、残念ながら票は入りませんでした。

- \* 19. 人生で何度あったか勇み足 (拿々=塚田) → 6票  
若気の至りでついつい行きすぎたことが、何回もありました。他の川柳子も「同感」や「皆そうです」、「誰もが思い当たることでしょう」と賛同があり、最優秀句の一つに選ばれました。
20. 足ダコと手豆煮て食う吝ん坊 (火酒=三春) → 2票  
凄い発想ですね。「足ダコ」と「手豆」を「煮て食う」姿を是非見てみたいとの評判でした。残念ながら今一つ支持が伸びませんでした。
- \* 21. 無駄足も我が人生の潤いに (零門=松谷) → 6票  
作者は「無駄足に悔いなし」と言っています。「無駄足を踏んでばかりの我が人生」や「そう思ってあきらめた事あったね」と同情の声が多数。最優秀句の一つに選ばれました。
22. 酒だけはふらつく足で買いに出る (酩帝=曾山) → 3票  
コロナ禍でも酒だけはふらふらと買いに行くのですね。「誰だ！そんなアル中は！」との声もありましたが、作者は「控え気味にちょっと飲むだけ」としきりに弁解しています。
23. 足向けて寝られぬ人が多すぎて (明迷=八木) → 2票  
お世話になった上司・先輩には足を向けて寝られませんね。作者は多くの人に恵まれたのでしょう。「いやあー、羨ましい」の声が多数ありました。
24. 足る足らぬいくつになってもせめぎあい (酔雅=西川) → 4票  
これも家計を巡っての「せめぎあい」ですね。歳をとれば使い方も変わってくるのですが、少し足らぬぐらいがちょうど良いのではないのでしょうか。
25. 雨足に追われ蕎麦屋で沈没す (晃二=安藤) → 1票  
作者は「ちょっと一杯の積りでしたが」と言っていますが、この蕎麦屋はお客をついつい長居させてしまうようです。
26. 礼節を学んで初めて足るを知る (損得=細谷) → 1票  
作者は「最近の若いタレントは、最低限の礼儀もわきまえていない」と嘆いています。若者よりも彼らを囲む大人たちがしっかり育てるよう配慮する必要がありますそうですね。

投句 13 名 = 大野ただし (だし)、曾山清徳 (酩帝)、細谷博 (損得)、西川武彦 (酔雅)、  
浜田道雄 (我々好)、稲宮健一 (井波)、山縣正靖 (安兵衛)、松谷隆 (零門)、  
安藤晃二 (晃二)、平尾富男 (酔深)、塚田實 (拿々)、三春 (火酒)、  
八木信男 (明迷)

投票 13 名

1 1 月以降の予定とお題： 1 1 月 2 3 日 (月) 「落」  
1 2 月 2 2 日 (火) 「氷」